

# 1 2020年度設備投資実績

大手民鉄各社は、大都市圏での著しい混雑状況の緩和等を図るため、各社足並みを揃えて1961年度より1996年度まで8次36年にわたり「輸送力増強等投資計画」を策定し、着実に施設の整備を進めてきました。1997年度からは、混雑緩和に一定の成果がみられることや需要の動向、工事の進捗状況等を勘案し、単年度の「鉄道事業設備投資計画」として整備を進めています。

2020年度は、踏切および運転保安工事に2,063億円を投じて、車両の更新・改良や運転保安設備の整備、耐震補強工事のほか、線路の立体化による踏切道の整理などの工事を進め、安全性の向上に努めたほか、サービス改善工事には1,241億円を投じ、駅施設のリニューアル、エスカレーター・エレベーターの設置を含めたバリアフリー化、運行情報案内表示器の整備、ホームドアの設置などを進めました。また、輸送力増強工事には325億円を投じて、都心への乗り入れ工事や駅の改良、車両の新造・更新などを進めました。

## ■ 各社別設備投資2020年度実績

(単位:億円)

	東武	西武	京成	京王	小田急	東急	京急	東京メトロ	相鉄	名鉄	近鉄	南海	京阪	阪急	阪神	西鉄	合計	構成率
踏切および 運転保安工事	147	124	133	149	151	142	93	418	90	87	214	63	87	106	23	29	2,063	56.8%
サービス改善 工事	48	63	14	16	82	45	42	698	28	19	50	10	30	82	5		1,241	34.2%
輸送力 増強工事	7	5	11	4	22	71	18	91	40	30					12		325	9.0%
鉄道・ 運輸機構工事	0																	
合計	203	194	160	170	255	259	154	1,207	158	136	264	81	118	190	40	30	3,629	100.0%

(注)「合計」と各項目の合計値とは必ずしも一致しない。(億円未満切り捨て)

踏切および運転保安工事: 運転保安設備の整備、耐震補強、線路の立体化による踏切道の整理など。

サービス改善工事: バリアフリー化(エスカレーター・エレベーターの設置を含む)、駅施設のリニューアルなど。

輸送力増強工事: 都心への乗り入れ、駅の改良、車両の新造など。

鉄道・運輸機構工事: 鉄道・運輸機構が施行するニュータウンや都心乗り入れ等の新線建設及び複々線化工事をいい、完成後民鉄が買い取るもの。